



NIA SQUARE スクエア

Quarterly News

第60号

2002年12月1日
習志野市国際交流協会

- Special スリランカ N.I.A Youth 国際協力フェスティバル
- What's New バラに魅せられて Who's who こんにちは・コンニチワ
- Report ベルギー駐在記 Challenge ザ・英文クロスワード
- Report N. I. A. 事業報告

光輝く島スリランカ

ハシタ・シシハラ・グナラトナ (大久保1丁目在住)

国名

日本人の方々がスリランカについて知っている事という、「セイロン」が「セイロン茶」の事だと思えます。スリランカは、遙か昔、他国の間では多種多様な国名で呼ばれていました。ギリシア人達は「サランディブ」、アラビアの貿易商人達は「タポロベン」、ヨーロッパでは「セイラン」と呼ばれていました。更に時を経て、英国の植民地時代に付けられた名前が「セイロン」でしたが、1972年、スリランカの憲法改正時に現在の「スリランカ」という国名に変わりました。

スリランカは南インドより29km程南東、赤道の北にある小さな島国です。大きさは65,655km²で日本の6分の1位、ほぼ九州と同じ位の大きさです。土地の大半は平野ですが、中心部に山があり、一番高い山はピヅルタラガラという山で高さは2,534mです。

スリランカの河川はこの山々が水源となっており、一番長い川は、マハバリ川で長さは355kmです。また、スリランカには滝が多く、その数は100以上にものぼり、一番高い滝はパバラカレ滝で高さは263mあります。こうした環境の下、スリランカの電力の殆どは水力発電に頼っています。

更にこの国を取り囲んでいる海はとてもきれいで、砂

浜はとても美しい白砂です。この美しい海を満喫しようと外国からの旅行者も多く、大都市のひとつであるコロンボから南はホテルが建ち並びリゾート地帯です。特に南の海岸町のヒッカヅワ、ベントータなどは珊瑚や魚がきれいなので、スキューバダイビングやマリンスポーツにくる旅行者がたくさんいます。また、この土地の夕焼けも絶景です。海岸沿いにあるココナツの並木道から

見る夕焼けはとても美しく、思い出に残る景色のひとつです。ヨーロッパが冬を迎えると、暖かい土地で日光浴を楽しむために、この地域からの旅行者がかなり増えます。

スリランカは小さな島国ですが、この国の特徴は、短い時間で色々な季節を感じられる事です。コロンボや海岸地帯は暖かく、平均気温は約27℃です。北部と南西部はコロ

ンボより暑いのですが、中心部にある山々はとても涼しく、海拔高度の一番高い地域、ヌワラエリヤでは昼の温度は18℃位なのですが、夜の温度は4℃まで下がります。さながら日本の秋の気温です。また、スリランカにも梅雨の時期があり、北西のモンスーンの影響で12月から3月迄、また南東のモンスーンの影響で6月から10月迄の時期にも雨が多く降ります。

人口

スリランカは昔から多種多様な民族が集まった国で



グナラトナ ハシタさんと次男のマティシヤ君 (ケンティーの寺院にて)

す。人口はおよそ19百万人で、その内74%はシンハリ民族です。14%がスリランカ系タミル人で、北部と北西部に多く住んでいますが、中にはシンハリ人と一緒にコロンボや他の地域に住んでいる人々もいます。また英国の植民地時代に、紅茶畑の作業の為、南インドから連れて来られたインド系タミル人は4%ほどで、まだ南中央部の高原地域に住んでいます。更に昔の貿易関係でアラビアやインドから移住してきたイスラム人の子孫は7%を占め、様々な地域に住んでいます。残り1%は、マレー人及びオランダ植民地時代の子孫のパーガー人、スリランカの先住民であるワッダ人です。

言語については、シンハリ人の公用語はシンハリ語で、タミル人とイスラム人はタミル語を使用しています。国の公務上の言語はシンハリ語とタミル語ですが、英語も国際語としてよく使われます。外国の方々には、シンハリ語とタミル語は似ていると感じるようですが、単語、文法、文字は全く違います。また双方の言語両方を喋る人はとても少数です。シンハリ語のシンハリ文字とタミル語のタミル文字は日本のひらがなとカタカナに似ている点があります。それは字に意味が無く、発音を作るためにある文字という点です。

宗教

宗教についてですが、人口の70%は仏教で、シンハリ人は仏教徒です。14%はヒンドゥー信者、8%はキリスト信者、7%はイスラム信者が占めています。スリランカでは4世紀頃インドから仏教が伝わり、スリランカの文化や人々の生活に大きな影響を与え、寺院も人々の生活において大事な場所になってきました。現在も地方の人々の間では、満月の時にお参りをしたり、多種多様な集う場所として使用されています。また、子供が誕生した時は、最初にお寺に連れて行きます。お葬式も御坊さんを家に連れて行き、亡くなった人の魂が天国に行くよう祈る習慣が未だに残っています。また、スリランカの昔の寺院や大仏像、仏教関係の絵はスリランカ中の様々な所で見られます。特にスリランカの歴史の中で1000年以上首都であったアヌラダプラと二番目の首都であったポロンナルワで昔の寺院や石で彫った大仏像など、色々な彫刻が今でも残っています。更にインドの建設技術を取り入れたスリランカ的な建物やかなり大きなパゴダもみられます。

シギリヤは5世紀に作られた宮城で、中にある絵やその他の建造物は中国の万里の長城に並ぶ人類が創造した世界中の驚くべき建造物の8番目としてUNESCOに認められています。宮城の中の絵は、インドで同じ時代に描かれたアジャンタの絵に似ていると言われ、スリランカで最もユニークで魅力的な絵とされています。今年は日

本とスリランカの国際交流50周年にあたり、それを記念して印刷された日本の切手の絵はそのシギリヤの絵です。

キリスト教はポルトガル人が初めてスリランカに伝えました。ポルトガルやオランダは当時海岸沿いの一部の町を占拠していた為、キリスト教信者は現在も海岸の町に多く住んでいます。コロンボやその他の都市では、仏教の寺院やヒンドゥー教寺院、キリスト教会やイスラム教会等さまざまありますが、宗教のトラブルはあまりなく、平和に暮らしています。

アダムスピークという山は聖なる山と言われ、その山の頂上には足型があると信じられています。仏教信者は仏様の足跡、キリストやイスラム信者はアダムの足跡、ヒンドゥー信者はシワ神の足跡と信じており、初詣には家族皆一緒にこの山に登り、祈る習慣がまだ残っている。

歴史

スリランカの長い歴史の中で記録が残っている時代は2400年前まで溯ります。一番最初の都はアヌラダプラで、時代によって都は移動され、最後の都はキャンディーです。また、一番最後の王様はスリウィックラマ・ラジャ・シンヘ王で、アヌラダプラからキャンディー迄を治めていたそうです。16世紀にオランダやポルトガルの貿易会社が海岸の少数の町を占領しましたが、その他の土地はこの王様が治めました。その後1815年に英国の軍隊がこの王様を捕らえた為、スリランカは英国の植民地になり、この時代に首都がキャンディーからコロンボに移されました。時を経てスリランカは1948年に独立し、民主主義国になりました。1972年に憲法が改正され、それまでであったイギリスの代表者席がなくなりました。更に、1979年に政治的な首都がスリジャヤワルダナプラコッテに移り、現在は国会議事堂もここに 있습니다。またコロンボは経済的な首都として現在も発展しています。

スリランカの過去20年間は内戦に明け暮れた暗い時代でした。タミルタイガというテロ組織が国をスリランカから分けて独立させようとした為、政府の軍隊と戦闘になり、約6万人の人々が亡くなり、経済的にもかなりの損失を受けました。幸い、現在は政府とタミルタイガは友好的な合意をした為停戦しており、国民は今後の平和と経済発展を期待しています。

今まで多少の紛争は有りましたが、現在はコロンボや他の地域ではタミル人とシンハリ人は平和に暮らしています。

経済

スリランカは昔から農業の国でしたが、現在では状況が変わってきています。国の労働者の45%はサービス業で、38%は農業、15%は製造業が占めています。スリランカが輸出している主なものは紅茶、衣料品、ゴム、香

香料、宝石、セラミック等です。また最近では衣料品産業が増えており、スリランカは世界の衣料品製造の2%を占めています。製造業においては外資系業者向けに産業地域を提供し、税金を免除させています。現在は日本、ヨーロッパ、韓国などの業者が工場を増やしていますが、内戦が終われば更に増加すると期待されています。

IT産業もスリランカで現在進んでいる産業のひとつで、外国からの依頼によりプログラムやソフトウェアを開発しています。他の分野においても、スリランカの業者はもとより、外国業者、その他外国企業とスリランカ企業の合併業者が増えています。また、金融関係の分野もかなり進んでおり、インターネット経由で銀行口座振替等のやり取りも行って農業については、全体的に農業従事者が年々減少している為、現在は農業機械を使用している農家が増えています。地方では未だ水牛や牛を使って昔ながらの農業を行っている農家もあります。

観光産業はスリランカの外貨収入源の一つです。暖かい気候、きれいな海と親切で適切なサービスは海外観光客を楽しませています。また、歴史的な古い建造物や野生動物園も観光客の興味を引いています。

更に外貨収入源としては、コロombo港における外国船の修理補修等、また、海外で仕事に従事している人達の中にはスリランカの家族に送金する人も多く、それも外貨収入源の一つです。

また、輸入相手国のなかで一番の相手国は日本です。日本からは機械、自動車、生地などを輸入しています。日本の業者は50社以上がスリランカに進出してきています。

教育

スリランカの人々が読み書きできる力は90.2%です。スリランカの教育制度では13年間学校で勉強します。5歳で小学校に入学し、その後6年間小学校で勉強し、更に4年間を中学校で、2年間を高校で勉強します。スリランカの大学は13校しかなく、受験する人数に比べ大学が足りない為、大学入試はかなり厳しいです。

公共の小学校の授業は全てシンハリ語かタミル語で教えてくれますが、大学の授業は英語のコースやシンハリ語、タミル語のコースがあります。また、大学の教科書は殆どが英語で、英語は高等教育には必要不可欠です。試験等については、国家試験の他に会計、技術者の資格など国際専門試験がスリランカで人気がありますが、この試験は主に都会に限られています。

また、英語以外の外国語を教えてくれる学校もあります。最近では外国語を勉強する学生の中に、日本語を勉強している学生が増えています。

食べ物

スリランカの主食はご飯ですが、日本のお米と違って

さらさらのご飯です。毎日スリランカ人はカレーを食べていますが、カレーの種類は300種類以上ありカレーの味やカレーに入れる香辛料は地域によって変わります。ホッパはスリランカにだけ有るスナックです。それぞれの地域毎に独自のカレーとお菓子があります。北の地方の食材には南インドのものと似ている食材があります。

スリランカではお祝い事があると、キリバティを作ります。お米とココナツミルクを混ぜて炊くごはんです。スリランカのお菓子も何種類かありますが、かなり甘いものです。シンハリ・タミルニューイヤーの時やお祝いの時にはこういったお菓子を何種類も机の上に並べて、スリランカのお茶を飲みながら皆で一緒に食べる習慣があります。

お酒を飲む時は主にお祝い、結婚式等の時です。地方ではお酒を飲む事があまり無く、お酒を飲む女性も殆どいません。それは仏教とヒンドゥー教の影響だと思えます。

文化

スリランカでは洋服が増えていますが、未だサリーを着る女性を多く見ることができます。サリーはワンピースのように着る5メートルの長い生地で、結婚式や葬式の時にも着ていきます(スリランカのケンヂャンサリーはインドのサリーと少し違います)。

スリランカの正月は4月13日と14日でシンハリ・タミル・ニューイヤーと言います。この時に、スリランカの昔ながらの習慣をよく見る事が出来ます。占い師がニューイヤーの時にご飯を炊く時間や食べる時間を決めてくれ、それに合わせて行動する事が慣習のひとつです。その他にも家族が皆で一緒にご飯を食べ、お寺に参詣して健康とお金が貯まるよう祈ります。両親に着る物やお金を渡して新年の挨拶をし、おじいさんやおばあさんは孫にお金をくれる習慣もあります。ニューイヤーの時は、都会で勤めている人達も帰郷し、家族や親類の人達と楽しみます。

お祭りは大概大きなお寺で行われます。スリランカでは日本のお祭りに似ている“ペラヘラ”という祭りがあり、スリランカの踊りを見る事が出来ます。スリランカの踊りは主に高原地帯の踊りであるカンヂアン踊りと南方地域にあるマスクをする踊りの二種類あります。双方の踊りはどちらも太鼓を使用します。この時は象もきれいな服や多種多様な飾りで着飾って祭りに登場します。このようなスリランカのお祭りの中で一番人気があるのはカンヂ祭りですが、そのお祭りにはスリランカ人だけでなく、海外から観光客も観にやってきます。

スポーツでは、クリケットという野球に似た競技に人気があります。イギリスで始まったもので、スリランカは、1986年にこの競技で世界チャンピオンになりました。

今号でご紹介する御巫由紀さんは、市内鷺沼出身。日本女子大学で生物学、千葉大学で花卉園芸学を学ばれた農学博士です。現在は千葉県立中央博物館で植物を担当し、植物標本の管理や植物に関することを仕事としていらっしゃいます。勤務の傍ら、世界各国をまわりバラのルーツを求めたり、バラの将来を夢見、品種改良について研究を続けられている方です。今回は、バラに関する想いを中心に、その魅力を書いていただきました。(萱場あさみ)

(1) バラの研究を始めたきっかけ

私が通っていた幼稚園は、今の谷津バラ園のすぐ近くにあり、遠足といえいつもバラ園へ行っていたように思います。自分がまだ小さかったせいでしょうか、果てしなく続く美しい花園のように感じられました。両親がバラ好きだったため、自宅の庭にもたくさんのバラがありました。なかでも私と同じ名前の「ユキサン」というバラや、淡い杏色に桃色が混じる微妙な花色の「ヘレン・トローベル」、深紅のピロードのような花が強く香る「パパ・メイアン」などがお気に入りでした。そんな子ども時代を過ごしたせいか、大学院に入って研究テーマを考える時には迷わずバラを材料に選びました。そのまま今日に至っていますが、バラはどんなに調べても、知れば知るほど新しい謎が生まれてくるので、どうやら一生バラとつき合うことになりそうです。ほかの植物ではそういうわけにはいかなかったらうと思い、正しい選択をしたと満足しています。

(2) 研究内容について

バラの花の色素について、研究しています。バラには白、ピンク、赤、紫、黄、オレンジとさまざまな色の花がありますが、青いバラはありません。世界中で大勢の人が青いバラを作ろうと挑戦してきましたが、まだ無理のようです。大きな英和辞典のroseのところを見てみてください。たぶん「a blue rose: ありえないもの、できない相談」と書いてあるでしょう(引用はリーダーズ英和辞典)。

昔、ヨーロッパのバラには白とピンクの花しか咲きませんでした。しかも花が咲くのは春だけ。そこへ中近東から黄色いバラが運ばれ(16世紀)、中国から四季咲きの赤いバラが運ばれました(18世紀)。また、日本からは枝が長く伸びるテリハノイバラと花が房咲きになるノイバラがヨーロッパへと運ばれました(19世紀)。ヨーロッパの人々はたいへん驚き、18世紀末頃からそれらのバラを使って一生懸命に品種改良を行い、その結果として今あるようなさまざまな花色のバラが生まれ、一年中、バラの花を楽しむことができるようになりました。青いバラが存在しないのは、青い色素を作る能力が遺伝的でないからだと言われています。でも、バラと同じタイプ

の遺伝的性質をもつのに青い花を咲かせる植物もあるのです。たとえばヒマラヤの高山に咲く青いケシがそうです。ですから遠い将来のことかもしれません。青いバラが生まれる可能性も絶対ないとは言えないと思います。

今、私が興味を持っているのは、いつどこでオレンジ色のバラが生まれたかということです。じつはオレンジ色のバラが生まれたのは、青いバラが生まれるのと同じくらい画期的なことだったのですが、今から100年近く前のことなのであまり研究されていません。現代の化学分析技術で、当時つくられた品種の花の色素を分析し、オレンジ色の色素の起源を明らかにすることで青いバラを作るヒントが見つけれたら、と思っています。

(3) バラの道

ヨーロッパ、とくにイギリス、フランス、イタリア等の国々は、19世紀から20世紀にかけて、プラントハンターと呼ばれる人々(なかには宣教師も多くいました)を世界各地に送り込み、彼らがたいへんな苦勞の末に、珍しい植物をたくさん本国へ持ち帰りました。そのなかにはもちろん中国や日本のバラも含まれていました。

世界中には野生のバラが約150種類ありますが、栽培されるバラの親になったのはそのなかでわずか10種類くらい。でも品種改良の歴史において、プラントハンターがヨーロッパにもたらしたアジアのバラは不可欠なものでした。それから約200年の間に人間の手で作り出された品種の数は数万種類あると言われています。

(4) 国によるバラへの意識の違い

～品種の保存について

毎年新しい品種がたくさん作られ、古い品種は忘れ去



フランスのライ・レ・ローズ園にて

られてしまいます。古い品種を保存しなくてはならないのではないかと考える人が最近が増えてきました。人類の文化遺産としてバラの品種を後世に伝えていこうというのです。残念ながら日本ではそのようなことを考える人はまだほとんどいませんが、欧米では品種の保存を目的としたバラ園がいくつかあります。なかでも世界三大バラ園と呼ばれるのがドイツの「エウロパ・ロザリウム・ザンゲルハウゼン Europa Rosarium Sangerhausen」、イタリアの「ロゼト・ポタニコ・カーラ・フィネスキ Roseto Botanico “Carla Fineschi”」、そしてフランスの「ライ・レ・ローズ L’ Hay-les Roses」で、おそらく6～7千品種を保有していると言われます。1999年、2000年に「ライ・レ・ローズ」を訪れ、今年「ロゼト・ポタニコ・カーラ・フィネスキ」を訪れて、ヨーロッパの人々のバラを大切に作る心に触れて感銘を受けました。

日本人も植物を愛する気持ちの強さでは負けていないはずですが、江戸時代に盛んであった文化としての園芸の歴史が、戦争の時代を経ていったん途切れてしまったせいか、現代にはあまり伝わっていないようで、経済優先の大量生産・大量消費の流れにバラの品種までもが流されてしまっているのを残念に思います。

中国もバラの栽培の歴史の長さではひけをとりません。10世紀にはもうかなりの数の品種がつくられ、宮廷の庭で栽培されていたといわれています。1995年から、バラの調査で新疆ウイグル自治区に2回、四川省に1回、そしてそのために北京、上海、広州などの都市にも滞在して中国のバラを見る機会を得ました。

天山山脈やその周囲の砂漠、四川省の長江の上流などには将来のバラの品種改良に役立つような珍しいバラが多数ありましたが、地方の民家の庭先には何世紀も前から栽培されてきたのではないかとと思われる、美しい四季咲きのバラが大切に育てられていました。都市部では開発の波がそのような貴重なバラを押し流し、欧米風の華やかなバラだけが植えられてしまっていました。すべてを失ってしまう前に中国本来の古い品種をどこかでできるだけたくさん保存するようにしてほしいものだと願っています。

(5) 日本のバラについて

今、私達が日本で目にするバラの花は、ヨーロッパで品種改良により作られたものがほとんどです。バラの品種をつくるのは育種家とよばれる人たちですが、日本で育種家として知られているのは京成バラ園の故・鈴木省三氏など、ほんのわずかです。その鈴木氏は生前、「日本の気候に合うバラを作らなくてはならない」と口癖のようにおっしゃっていました。乾燥したヨーロッパの気候に合わせて作られたバラは、湿度の高い日本で栽培す

ると病気が発生しやすい上に、樹形も花の形もヨーロッパで栽培された時とはまったく変わってしまうのです。そのようなヨーロッパの品種を無理して日本で作るのではなく、日本の気候に合ったバラを作る、それは今後ますます求められることだと思います。

また、日本には野生のバラが14種類ほどありますが、品種改良の親として今までに使われているのは3種類だけです。まだ使われていない野生種の中に、将来、すばらしいバラをつくり出す可能性が秘められているかもしれません。私自身は品種改良の現場に携わることはありませんが、研究を通じて日本のバラに関する知識を深め、育種家の人たちに情報提供していけたら、と思っています。

(6) 習志野の子どもたちへ

研究を職業とする、というのは、人によって向き不向きがあると思いますが、ひとつのことを深く真剣に研究していると、ときどき、とても嬉しいことがあります。長い間わからなかったことが急に解明されたりしたら、それはもちろんとても嬉しいですが、日常生活の中でももっと些細な喜びがあります。たとえば、私はあまり語学が得意ではありませんが、拙い英語で話していても、バラの話だったらどんな国の人とでも話が通じるのです。あまりにも専門的すぎて、日本の国内ではなかなか話の合う人がいないようなことでも、国際学会に出かけて行くとワクワクするほどお互いに理解し合える人と出会うことがあります。会話はいつもgive and takeですから、相手が知りたいと思う情報を自分が持っていれば、語学の能力が不十分でも相手がそれを補ってくれることが多いのです。そういうとき、あー、バラを研究してよかった、と心の底から感じます。最近では電子メールのおかげで、いつでも思いついた時に海外の人と話すことができ、そこで得られる知識の量は、ひと昔前では想像できなかったほどのものです。この恵まれた環境を活かしていきたいと私自身も思っていますが、皆さんにもぜひ、何か夢中になれるものを見つけて、世界中の人と一緒にそれを楽しみ、昔の人には不可能だったことを可能にしていってほしいと思います。



イタリア「バラの植物園」にて
(育種家プロフェッソール氏と)

初めてベルギーに駐在することを主人から聞いた時、正直言ってベルギーがヨーロッパのどこにあるのか、何語を話すのかさえ知りませんでした。

ベルギーは、北にオランダ、西と南にフランス、東にルクセンブルグとドイツに囲まれた関東地方程の大きさの国です。



サンカントネール 公園にて

言語は主にフランス語とフラマン語（オランダ語の方言のようなもの）、一部の地域でドイツ語が国語の国です。私も、行く前には「フランダースの犬」の舞台であるアントワープがベルギーにあるという程度のことは知っていましたが、ナポレオンが戦ったワテルローがベルギーにあるというのは知りませんでした。

今から7年前、3歳半と1歳3ヶ月の2人の娘を連れて、さらに上の子どもは重度の脳障害児という4人家族で、ベルギーのブリュッセルでの生活が始まりました。

まず、住み始めた時のベルギーの印象は、街並がどこまでも美しく、街には緑があふれ、食べ物もおいしく、田舎の景色さえ美しい、素敵な国だと思いました。この想いは、6年半住み終えて日本に帰国した今でも変わりません。ただ、行ったのが10月だったので、これから暗い冬に入っていくという時期で、冬はいつも空がどんより暗く、朝は明るくなるのが9時ごろ、日が暮れるのが4時ごろになるので、1年目の冬は気が滅入りました。それでも2年目からは覚悟ができたので、それにも慣れ、冬は冬の楽しみ方を見つけることができました。

ベルギーでの私たちの生活といえば、主人の仕事は大変でしたが、通勤は車で15分と楽でした。会社ではフラマン語系のスタッフと英語でやりとりしていました。ベルギー人、特にフラマン語系の人には言語能力に優れていて、フラマン語、フランス語、英語の3ヶ国語を話せる人が沢山います。一方フランス語系の人、フランス語のみという人が大変多いです。暮らしてみると、ベルギー国内でのフランス語、フラマン語の言語対立がかなり激しいのがわかり、私もフラマン語圏ではフランス語ではなく、英語を話すように配慮していました。

子どもたちは、長女は障害児なので、現地の障害児施設に通っていました。ベルギーでは、50人程度の小規模の施設が沢山あり、親が子どもをどの施設に入れるか選択することができます。最初、私達はEU加盟国以外の外国人ということで、いろいろな施設から入所を断られました。実費を全額自分で払うという条件付で、家にも近い、とても行き届いた施設に通うことができました。実費はかなり高額だったので、特別に週3日だけ通うことにしてもらいました。家で過ごす2日間は、家にリハビリの先生が来てくれていました。ベルギーでは医師の数、リハビリの先生の数がとても多く、いつでも往診してもらえて、幼い子どもを持つ身にはとてもありがたかったです。

下の娘は、現地の幼稚園に2歳半から通い始め、小学校2年まで同じ学校に通いました。小学校からは毎週土曜日に、日本人学校の補習校にも通い、算数と国語を学習しました。



長女華香の施設にサン・ニコラが来た日

現地校での思い出はたくさんあります。新学期は9月1日から始まり、6月30日に学年が終わります。そして宿題のない長い2ヶ月の夏休みがあります。学校行事として、入学式や運動会、学芸会などはありませんが、季節の節目々々の宗教行事に合わせて、2月には謝肉祭、カーニバルがあり、子どもたちが思い思いの変装をして学校に行きます。その日は学校でキャンデーやジュースでパーティです。4月には復活祭があり、うさぎや卵にちなんだ工作を作ってきます。12月6日には、子どもたちにプレゼントを持ってきてくれる聖人サンニコラが来ます。お供のペールフェッタとともに学校にも来て、みんなで写真を撮ります。お誕生日には、親がケーキやお菓子を学校に持っていくと、クラスでみんな歌を歌ってお祝いしてくれます。その他、バスに乗って遠足や、



幼稚園年長の時、ハロウィーンの日在学校で
(一番左が二女有里香です)

地下鉄に乗って町の映画館にディズニー映画を観に行ったり、農場に行って家畜に触れたり、充実した日々だったと思います。夏休みには、サマースクールの形で、週代わりで色々な事が学習できるカリキュラムも整っていました。これは両親が共に働いている子どもの学童保育の意味も兼ねていて、とても合理的なシステムだと思います。そういうクラスでは、音楽、演劇、料理、ダンス、科学、絵、サッカー、テニス、乗馬などなど様々なものが週単位で経験でき、子ども自身、何が好きかを見つけるいい機会でもありました。

子ども本人は今、実質的には初めての日本での生活を心から楽しんでいるようです。親としては、帰る頃には現地の子どもと何不自由なく話していたフランス語を忘れないでほしいのと、学校のこ



イーベルの町で3年に一度行われている「猫まつり」のパレード

と、仲良くなったお友達のこともずっと忘れないで、大切にしてほしいと思います。

私自身の生活は、主に子育てが中心ではありましたが、生活のためにも、フランス語の勉強だけは欠かせず、帰国するまで、週2回は続けていました。私の場合、語学は好きだったので苦痛ではありませんでしたが、帰国するまでにマスターすることはできませんでした。日常生活程度なら何とかできますが、それより一歩踏み込んで、自分の思っていることを全て相手に伝えるというのは、なかなかままならず、フラストレーションがたまったりもしました。でも、言葉は完璧ではなくても、熱意をもってのぞめば相手はわかってくれるということを、何度も経験しました。熱意や誠意、逆に言えば悪意も、言葉は通じなくても通じるものです。

今年2月に日本に帰国し、今は、久しぶりの日本の生活を楽しんでます。外国に住んだからこそわかる日本の良さを再認識しながら日本の四季、食べ物、文化、日本語で何でも伝えられることの快感を満喫しています。



ブルーージュの聖血祭パレード

アジアの女性達と 袖ヶ浦東小学校6年生との交流会

菅場あさみ (編集部)

10月2日、澄み渡った秋空のもとN.I.A.会員のアジアの女性5人、三浦アノタイさん(タイ)、ピナ・マスキードさん(パキスタン)、リョウ・ユエン・イエさん(台湾)、テレサ・リントオさん(フィリピン)、バーナーデット・グレゴリオさん(フィリピン)が袖ヶ浦東小学校を訪問しました。今回の交流会は袖東小の6年生担任の萩谷・藤田両先生が、

1. 子供達に自分達もアジアの仲間という気持ちを持たせたい。
2. 日本に来ている外国人の人達のためになることや、町づくりを考えさせたい。
3. アジアの子供達のためになる活動(ユニセフ、ユネスコなど)を考えさせたい。

以上3つの目標を掲げ企画されました。

まずは校長室に待機していた5人を、係りの子供達が迎えに来てくれました。子供達の表情からこの日を心待ちにしてくれた気持ちが伝わり、皆さん緊張しつつも楽しみに6年生全員の待つ会場の視聴覚室へと向かいました。そして自己紹介を済ませた後、用意されていた次の7つの質問に順番に答えていきました。

1. 日本に来た理由。
2. 日本で生活して、「不便だな。困ったな。」と思ったこと。
3. 日本で生活して、よかったなと思ったこと。
4. 日本人は、ここがおかしいな(変だな)と思ったこと。
5. 日本人は、ここがいいなと思ったこと。
6. 自分の国の様子。(気候。町の様子<習志野市と比べて>。食べ物。服装。家。お金。1ヶ月のお父さんの給料。1日の生活の様子。宗教。楽しみ。)
7. 自分の国の子供達の様子。(学校。勉強の様子。給食。遊び。学校に行けない子がいるかくその理由も)。子供達の夢。家でどんなお手伝いをするか。働いている子供がいるか。)

これらの質問に対して、一生懸命勉強中の日本語で各国の実際の様子を子供達に伝え、どの答えも興味深く受け止められていました。日本の感想は、皆さん口をそろえて「きれいで便利な国」と感じ、鉄道などの公共交通網がとても整備され、時間に正確なことに驚いたと話していました。また各国とも鉄道が整備されていないため

に、移動手段として自動車を使うしかなく、それによる交通渋滞と大気汚染がひどいそうです。習志野は空気がとてもきれいと言われ、子供達は「えーっ!？」という声をあげながらも誉められて嬉しそうでした。台湾はいろいろな意味で日本に一番近い国のせいか、最も受け込み易く感じられていたようですが、女性が結婚すると仕事を辞めてしまうことには疑問を強くもったというものでした。その他に困ったこととして、それぞれの国の食材やスパイスなどが手に入らないこと、道路交通標識がわかりにくいことなどを話し、子供達の「外国の人のための町づくりの提案」の参考になっていたようでした。

約1時間半の質疑応答の後、2クラスに分かれ子供達と楽しく給食を共にし、第1回交流会を終えました。

ふだん生活していると当たり前になってしまっていることが、外国人の目から見ると語られると、良いところも直したいところも、改めて再認識できる気がいたしました。袖ヶ浦東小の皆さんも、多くのことを感じ取ってくれたことでしょう。



設立15周年記念講演会「海を越えた女性たち」

—シュミット村木眞寿美 (N.I.A 編集部)

習志野市国際交流協会の設立15周年記念講演会が10月29日に開催されました。「海を越えた女性たち」というテーマで、在独日本人作家のシュミット村木眞寿美さんを講師として招き、ご自身の異国での体験と執筆活動を通して、明治、大正、昭和という激動の時代、国際結婚をして海を越えていった日本人女性たちの人生を語って頂きました。会場には女性会員を中心に100人を超える参加者が集い、村木さんの講演に魅了され、静かな感動に包まれました。

村木さんは1942年東京生まれで、クーデンホーフ光子研究の第一人者として著名です。「花・ベルツへの旅」(講談社)、「クーデンホーフ光子の手記」(河出書房新社)など多数の著作があり、文筆活動以外にもロンスペルク城の修復や日本庭園の制作など多彩な活躍をされています。早稲田大学大学院修了後、ストックホルム大学に留学し、1968年からミュヘンに在住しています。

クーデンホーフ光子は、19世紀末にオーストリア・ハンガリー帝国代理公使と結婚して海を越え、「黒髪の伯爵夫人」、「欧州連合の父、リヒャルトの母」とまで称された人物。国際結婚が厳しい時代に異国の地で文化の壁を乗り越え、輝いた存在となりました。光子は、ボヘミア地方のクーデンホーフ＝カレルギ家で伯爵夫人として、優しい夫と7人の子供に囲まれて、表面的には幸せな日々を送っていました。

ところが、夫ハインリッヒの突然の死が彼女の人生を一変させます。その後、ウィーンに移り住み、伯爵夫人として社会的な活動を始めます。ウィーンの社交界で躍脚光を浴び、サロンの花形となります。第一次世界大戦が終わった頃、パリで「ミツコ」という香水が発売されましたが、そのネーミングはクーデンホーフ伯爵夫人光子をイメージしたという噂もありました。

次男のリヒャルトは、第一次世界大戦の悲惨な結果を体験し、欧州のすべての国が合体して一つの国になるべきだという「パン・ヨーロッパ運動」を提唱・推進します。パン・ヨーロッパ連盟を設立しますが、第二次世界大戦でナチスに本部を襲撃されて、アメリカに逃亡。戦後も運動を続け、1958年欧州経済機構(EEC)が成立、今日のEU結成の思想的な源流をつくったのです。

そもそも村木さんは、東京医学校の教師を務めたベルツ博士の妻、花・ベルツの足跡を辿っていました。それは異国での生活と国際結婚の体験から、異国人同士、異国文化の真の理解がいかに難しいかを肌身で感じてきたからです。「ベルツの日記」の中で理想郷のように引用されているカールスバードを訪ねたついでに、クーデンホーフの居住地だったロンスペルクに立ち寄りました。

再度、訪れて荒廃し辺境の地と化していたボヘミアの姿、すっかり置き去りにされた廃城。それまで書かされたものが伝える光子に反発さえ感じていたが、繰り返し廃墟に立つうちに、光子の声が聞こえたような気がした。気が付くと10年余り、異文化と渡り合ったもう一人



の日本人女性、光子を追いかけていたという。

村木さんは、従来の脚色された光子像ではなく、光子自身の手記や人脈をたどり、光子の実像に迫ろうとした。その労作が「ミツコと七人の子供たち」(講談社)です。その行間からは、光子の息遣いが聞こえてくるようで、赤裸々な素顔の断片に肉迫しています。創りあげられた伝説のイメージではなく、苦悶する光子の実像が描かれています。

国際化という言葉が喧伝され、ビジネスや旅行で海外に行く機会が飛躍的に増加し、国際情報が洪水のように流れているが、果たして人間の背後にある異文化の理解は進んでいるのか。「花・ベルツへの旅」で村木さんは、こう問題提起をしています。

「ただいま『国際化』の大バーゲンといった観がある。しかし、花さんの時代より、本当に国際化は進んでいるのだろうか。国際化とはどういうことなのか、どんなプロセスを経過し、何を克服し、どんな傷に耐えなければならぬかといったことが、本当に考えられているのだろうか。私には、国際化とは、一面、進歩のための後退に耐えうることも思えるのだ」

外国人との結婚で、絶えず葛藤や疑問を抱えてきた人にしか分からない重い言葉です。村木さんは、国際結婚をして異国で生活してきた先人たちの足跡を辿ることに、より、危機を乗り越えてきました。しかし、異文化を持つ人間同士の理解の旅は今、始まったばかりで、永遠に続く旅なのかもしれません。(木村)

10月5（土）6（日）日に日比谷公園で国際協力フェスティバル2002が開催されました。会場には、国際協力に携わる政府機関、国際協力市民団体（NGO）等、約200団体が一堂に会し、各団体の活動紹介をはじめ、様々な国際協力に関する各種プログラムが行われました。青少年部会員の報告です。

国際協力フェスティバルは、10月6日が「国際協力の日」であることを記念して、1990年より開催されています。この日は日本がコロポプランに参画し、開発途上国支援を開始したのが1954年10月6日であったことから、1987年に閣議決定されたものです。会場は5つのエリアに分かれています。それぞれ各種団体のブースがあり、活動紹介や物品の販売、飲食エリアでは世界各地の料理が提供されました。

その他2ヶ所のステージでは民族舞踊等のパフォーマンスが行われました。会場では各ブースでの説明に熱心に耳を傾ける人や世界各地の料理に舌鼓を打つ人などたくさんの人で賑わっていました。



地球上の一人

安藤 千紘（青少年部会）

私は、ユネスコについて話を伺いました。名は知られていますが、主に何を目的として活動しているのかわからなかったからです。ユネスコは、世界162の国と地域で子どものために活動する国連機関です。1946年、第1回国連総会で創設されました。18歳になるまでの子どもの保健、水と衛生、栄養、教育の支援などを実施しています。今回は5歳までの子どもにとって死亡率の高いとされている下痢を防ぐため、安全な水に変える粉（薬品）を見せてもらいました。一袋8円と安いのですが、毎日飲むものなので砂糖と塩で代用できる方法を習いました。私はボランティアとはその人を自立できるように手伝うということを学びました。その人もまた、人に支えられては結局何もできません。偶然にも安全な国、日本で生まれてきた私たちは、地球上の一人として、他の人が困っていて何もしないのでしょうか。私は、今回

このフェスティバルに参加して、世界の人々のためにこんなにも多くの団体があるのに衝撃を受けました。人のためにつくすことは自分自身も大きく成長できることだと思いました。

自分のできるところから国際協力を

高橋 順子（青少年部会）

私は国連大学という名前を何度か聞いたことはあっても「実際にはどんな活動をしているのか。」や「一般の大学とはどう違うのか。」という疑問や興味を持ちました。国連大学とは一般の大学とは違い、大学とは名前だけなのです。創立の構想は1969年、当時のウ・タント国連事務総長によって提唱され、1973年12月の第28回国連総会で国連大学憲章が採択され、1975年、東京に暫定的な本部を設けて事業を開始しました。現在の恒久本部施設は1992年6月に完成し、研究施設は1995年に完成し、国連大学高等研究所として1996年4月に発足しました。使命は国連とその加盟国および国民が関心を寄せる、緊急かつ地球規模の問題解決の努力に、学術研究と能力育成をもって寄与することです。主要な役割として学者・研究者の国際的共同体としての機能、国連と世界の学術社会の「懸け橋」、国連システム全体のシンクタンク機能、能力育成、特に途上国における能力育成です。また、国連大学での「学生」とは国連大学が実施する大学院レベルの研修プログラムに参加する研修生、同大学の能力育成コースの受講生として選ばれた途上国出身の若手研究者や専門の技術者たちを指します。

今回の国際協力フェスティバルに行ってみて国際協力や国際交流に興味・関心を持っている人がたくさんいることに驚きました。特定の団体等で活動していなくても国際交流や外国を知る機会はたくさんありますし、難しく考えなくても身近なところで誰もが何らかの形でできると思います。例えば、募金、関係のあるテレビ番組や映画を見たり、本や雑誌を読んだり、実際に話を聞いたり、友人を作ったり、旅行、インターネットでの交流です。

私は日ごろのニュースに関心を持ち、日本や海外がどうなっているのかを常に情報に敏感になりたいと思います。自分のできるところから少しずつ国際協力をしていきたいと思います。

会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

習志野市教育委員会のAL.T. (外国語指導助手) の異動があり、マイケル・リガール (カナダ) とケイト・ウォレス (ニュージーランド) の2名が7月末に退任しました。新しく2人のAL.T.が就任しましたので、今号でご紹介します。2人は会員としてN.I.A.の活動にも参加しています。

日本語の勉強が好き



メリアン・エスペレッタ (アメリカ出身)

みなさん、はじめまして。

アメリカのメリアン・エスペレッタです。フィリピンでうまれました。

じゅっさいのころ、かぞくといっしょにアメリカのシカゴへひっこしました。いもうととおとうとがいます。

シカゴのデ・ポールだいがくでかいけいとけいざいをべんきょうしました。15かげつかんにほんごをべんきょうしました。にほんごのべんきょうをすることがすきです。

7がつににほんにきました。にがっきは、1中とやつしょうがっこうとむこうやましようがっこうでえいごをおしえます。そして、こどもたちとおことのクラスもします。スピーチコンテストのしどうもしました。

にほんのせいかつがすきです。ならしのしではたらくことをほこりにおもっています。

どうぞよろしくおねがいします。

サーフィンやスノーボードが大好き！



アラン・キッド (ニュージーランド出身)

ニュージーランドから来日しましたアラン・キッドです。私が日本に来たのは、これが初めてではありません。日本には沢山の友人がいますし、たまに、その友人の処へ遊びに行ったりしています。現に、私の趣味の1つは、旅行ですし、世界の20ヶ国以上の国々を旅しました。それぞれの国では、多くのことを経験し、それらのいくつかの国は、本当に良かったです。その結果といいましょうか、日本でALTとして仕事をすることができました。

以前、ニュージーランドで市の職員として働いたこともあります。又、電気技師の資格を取得したり、日本に来るために、観光の資格も取得しました。“日本の観光客の行動”を研究し学

位を取得しました。

習志野市に来てからは、新しい日本での生活を実に楽しく過ごしていますが、日本語を出来るだけ早く身に付けたいと思っています。

ニュージーランドでは、サーフィンやスノーボードをして楽しんでいましたが、習志野市でこれらの遊びをするのは困難かもしれませんね。しかしながら、スポーツなら何でも好きなので、日本で楽しめるスポーツに大いに挑戦してみたいと思っています。(訳：沼澤)

メールアドレス及びホームページURLの変更について

「し〜ぶるねっと習志野」のドメイン名変更に伴い、11月1日より本協会のメールアドレス及びホームページのURLが以下の通り変更になりましたのでお知らせ申し上げます。

メールアドレス

(旧) nia@seaple-n.icc.ne.jp (新) nia@seaple.ne.jp

ホームページURL

(旧) http://www.seaple-n.icc.ne.jp/~nia (新) http://www1.seaple.ne.jp/nia

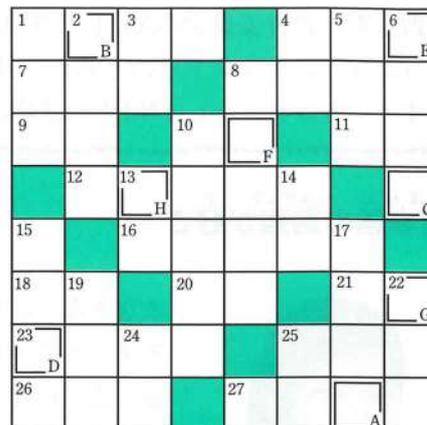
Letsチャレンジ/ザ・英文クロスワードパズルNo.59/プレゼント付!

<Across>

- Any flat surface: Region, District.
- (Dried leaves of) evergreen shrub of Eastern Asia: Drink made by pouring-boiling water on these leaves.
- A common domestic animal long kept by man as a pet or for catching rats and mice
- Commonest and most important metal, from which steel is made.
- Temporary Constable.
- Anglo-Norman
- A chemical symbol for Nitron.
- Large, strong bird of prey with keen sight.
- , bred. bred.
- Old Testament.
- English Translation.
- Okey, correct, all right.
- , lost, lost.
- Small flying insect which gathers nectar from flowers.
- A small mark as one made with a pencil.
- Engaged in work: not idle.

<Down>

- Perform action, do something.
- Tribe or nation.
- Same as No. 20 of ACROSS.
- Treasurer.
- Variant of AEON.
- Prefix meaning opposite, against, counter.
- A narrow strip of water running into the land.
- Say "yes." Have the same opinion.
- Bachelor of Arts (Latin)
- Early English.
- Sell, -, sold.
- My foreign friend - not eat raw fish.
- Also, in addition, moreover.
- Operating part of a piano, organ, typewriter, etc., pressed down by a finger.
- Street,
- Bushel



<出題者> 御園生 馨 (編集部)

<応募要項>

クロスを解いたあと、A~Hの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで1月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。たくさんのご応募お待ちしております。

* 姉妹都市 タスカルーサ市「桜祭り」 “作品募集”

タスカルーサ市では、毎年3月から4月にかけて、日本文化の紹介と姉妹都市交流をテーマに「桜祭り」が行われています。毎年、本市からも俳句や絵画のコンテストに作品を出品しています。2003年の桜祭りにも習志野市民や学生の皆さんの参加を期待しております。是非ご応募ください。

俳句部門

テーマ: 宝、たから

1人3首まで (応募用紙は事務局にあります)

絵画部門「ヤングアーティスト・コンテスト」

テーマ: 宝

対象年齢: 13才~18才

画用紙 A3版を使用し、水彩、クレヨン、インク等使用

作品に、名前、住所、学校名、学年、電話番号を記載

締切日は、2003年1月末。N.I.A.事務局まで送付、または持参して下さい。

(姉妹都市交流部会)

* 新年、餅つき大会

恒例の餅つき大会を次により開催します。外国の人々と共に、餅つきに挑戦しませんか?

日時: 2003年1月26日(日) 正午より

場所: 菊田公民館 (津田沼7-9-20)

参加費: 無料

申込み: 1月25日(金)までに N.I.A.事務局へ (交流部会)



編集後記

*インド大陸から流された涙粒のような島、スリランカで今年10月に新種のカエルが見つかったとか。どんな色しているの? 見てみたいね。(Y.T.)

*The Japanese citizens who were abducted by N. Korea is a big ongoing issue in Japan now. There are delicate questions like whether allowing these abductees to go back to N. Korea or the contrary. What's your opinion? (S.M.J.)

*還暦を迎えた「NIAスクエア」。赤い表紙で祝えなかったが、おめでとう。まだまだ喜寿、米寿、白寿...が待っているよ。これからも、ときめきの紙面で長生きしよう。(K.M.)

*2002年も終わりが近づいています。本年もNIAスクエアをご愛読いただきありがとうございました。来年も宜しくお祈りします。(N.I.)

*「異文化を背景に持つ人間同士が、真の理解をすることほど難しいことはない」今回の15周年記念講演会の村木さんの言葉には重みがあった。(T.K.)

*ノーベル平和賞を受賞した元米大統領カーター氏の功績は、実に素晴らしい。彼の功績について再認識させられた。(K.N.)

*先日ポーランド人に、日本人とドイツ人の女性のファッションには似たところがあると言われました。どこか完全でない、そんなミスマッチがあるとのこと。イタリアやフランスに負けないぐらいファッションの先端を行っているのにどうして?? (Y.K.)

前回の解答

<解答> SINGAPORE

S	U	N	E	A	S	T
P	L	A	N	T	E	A
I	T	O	B	E	G	
N	G	R	E	E	N	
H	O	T	E	L	D	
T	E	H	C	H	A	
O	A	R	H	A	I	R
O	P	E	N	A	S	K

当選者

袴田 奈央さん 大山晃太郎さん
片山 祐樹さん 深山由香里さん
木村 亮太さん 正解者は24名でした。

N.I.A.スクウェア・第60号

発行2002年12月1日/発行責任者・白鳥 純

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・館川 裕

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12
サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

http://www.i.seaple.ne.jp/nia

<Eメール> nia@seaple.ne.jp

メールアドレスとホームページアドレスが変更になりました。